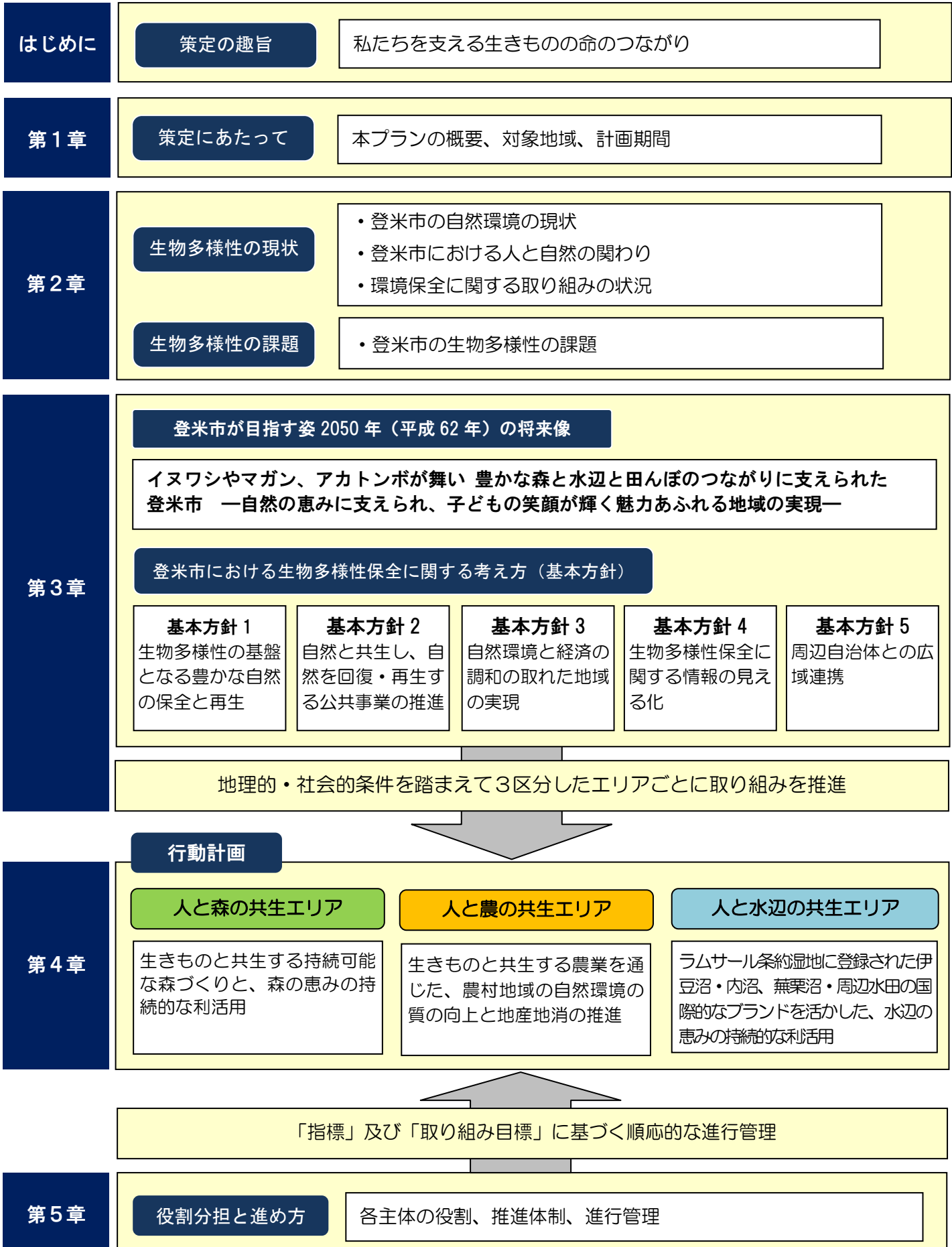


「とめ生きもの多様性プラン」の構成



はじめに

— 私たちを支える生きものの命のつながり —

私たちの命は、自然がもたらすおいしい水や空気、食べものなどの様々な恵みによって支えられています。多様な生きものと、生きもののすみかとなる森や川、海などの様々な自然のつながりが健全な状態にあることで、私たちは自然から多くの恵みを得ることができます。

地球の誕生以来、長い時間をかけて形づくられた、生きもののつながり（生態系）のなかで私たちは命を授かり、毎日の生活を営んでいます。地球上のあらゆる生きものは、食べる・食べられる、すむ場所が重ならないようにするなどの様々な関係の中で、複雑につながりあって生きています。この様々な生きものたちの命のつながりが生物多様性です。

私たちが生きていくうえで、欠かすことができない水や農産物、魚介類、木材などの資源は、健全な生態系があることでもたらされています。また、身近にさまざまな生きものがあることによって、私たちの文化が築かれ、精神的にも豊かな生活を送ることができます。しかし、開発や資源の過剰な利用などで、ひとたびそのバランスが崩れると、元通りに回復するにはとても長い時間と、たくさんの労力やお金がかかるうえ、場合によっては二度と回復できないこともあります。私たちがこれからも地球で暮らしていくうえで、人と自然のつながりを将来にわたって持続することが大切であり、そのためには私たち一人ひとりが、自然の恵みを上手に利用しながら、身近な自然を大切に育む暮らし方を率先して実行することが求められています。



毎日の「いただきます」という言葉には、生きものの命（自然の恵み）をいただくことに感謝するという意味が込められています。私たちの命は、生きものと自然とのつながりが健全であることで支えられています。

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災を経験して私たちは、科学技術に支えられた便利で快適な暮らしや物質的な豊かさが、自然という人為の及ばない大きな存在のうえに成り立っていることを改めて認識しました。本市の経済は、明治時代以降のわずか 100 年ほどの間に、めざましい成長をとげましたが、その一方で、宅地の開発や、食料の増産を目的とした干拓や土地改良事業などによって多くの湿地が水田に姿を変えました。

こうした現状を踏まえて本市では、今後の環境保全のあり方を示した、登米市環境基本条例を平成 19 年に制定し、翌年に登米市環境基本計画を策定するなど、自然と共生したまちづくり

の実現を目指してきました。また、この計画に基づいて、市内の各地域では、市民や NPO、企業、学校、市などの多様な主体による環境保全の活動が行われています。しかし、市内の沼や河川の水質の悪化や、手入れが十分に行き届かずに放置されて荒廃しつつある森や農地、年々その分布を広げつつある外来生物など、まだ解決策が明らかになっていない課題も含めて、私たちの身近な自然はいくつもの課題を抱えています。

そこで、これまでに市内の各地域で個別に行われていた環境保全の取り組みを、川の上下流や地続きの森林など、より大きな自然のつながりの中で捉え直し、登米市が目指すべき将来の姿を見定めるとともに、市全域の生きものと自然のつながりを、本来の健全な状態に戻すために必要な行動を整理したものが本プランです。